

原発ゼロNO 119

福島原発事故「避難者に希望の光」

原発事故、国に責任

東京電力福島第一原発事故で福島県から千葉県に避難した住民ら43人が国と東電を相手取り、計約18億8千万円の損害賠償を求めた。争点は、巨大津波の襲来を予見し、対策を講じていれば事故を回避できたかどうかだった。訴訟の控訴審判決で、19日東京高裁白井幸夫裁判長は「対策を取れば事故に至らなかった。国の規制権限行使は違法」と述べ、国に東電と同等の責任があると認定。「津波対策の措置を講じるべきだった」として国の法的責任を認め、東電に計約2億7800万円の賠償を命じ、控訴審での請求額に引き上げ、約1億3500万円は国も連帯して支払うべきだとして国と東電双方に賠償を命じた。東電にだけ賠償を命じた一審千葉地裁判決を変更した。

「逆転劇」

勝ち取った住民側は「原発避難者の心に希望の光をともしてくれた」と喜び、全国で起きている同種訴訟への波及を期待した。原発事故の避難者が国と東電を訴えた集団訴訟は全国では30件あり、高裁判決は3例目。国の責任については、昨年9月の仙台高裁判決が認定、今年1月の東京高裁判決は否定し、控訴審での判断が分

かれている。白井裁判長は、2020年に地震調査研究推進本部が巨大津波を発生させる地震の可能性を指摘していた「長期評価」について、「相応の科学的信頼性のある知見」と指摘。長期評価の見解に基づけば、国は15メートル以上の津波の危険性を認識できたとした。防潮堤や原発の重要機器を水させない水密化（水が密閉され、水圧がかかっても漏れない）など事前対策は可能で、国は想定すべきだったと判断。「対策が講じられれば、津波の影響は相当程度軽減され、被災には至らなかつた」と結論付け、事故の結果回避可能性について仙台高裁判決よりも踏み込んだ認定をした。避難者が帰還するかどうかの意思決定を迫られることや、元の居住地での生活を諦めることなども精神的損害に当たると判断。慰謝料とは別に賠償すべきだと考えを示した。原子力規制委員会は、国の主張が認められなかつたと考えている。事故を踏まえ、適切な規制を行っていききたいと話している。

岩手地本

建交労鉄道

2021年 3月16日
NO 139号
発行責任者
須藤清成

人間が健康に生きて行く為に149

新型コロナウイルス予防

茶葉から入れた「紅茶」は感染力99.975%不活化

2020年11月15日、奈良県立医学大学（微生物感染症学講座 矢野寿一教授）は、お茶は新型コロナウイルスを不活性化させる効果を示した。実験では、試験管の中で新型コロナウイルスの液体と市販のお茶を混ぜ、一定時間が経過した後、感染価（ウイルスを感染させる力）がどれだけ残るかを調べました。ペップトボトル入りの緑茶と茶葉から煮出した紅茶、県特産の大和茶の3種類を用い、常温で1分、10分及び30分後に効果を測定しました。その結果、緑茶ではウイルスの液体と混ぜた1分後から、大きな効果（99%減）があらわれ、その後30分で99.975%まで減少し、高い不活性化を示しました。3種類の中には不活性化が見られなかった。効果には差がありました。また、同じ紅茶でもペップトボトル入りは効果が低く、茶葉から入れた紅茶は、安価なものでも高い不活性化が見られた。

カテキンによる効果 さらに検討が必要

矢野教授によると、お茶に含まれる成分カテキンは、インフルエンザウイルスなどの表面にある突起状のたんぱく質に付着し、感染力を弱くすることが確認されており、新型コロナウイルスでも、同様の効果が推測されるといいます。なお、今回の研究では、お茶を飲むことによる感染予防効果の検証は、おこなっていないので、さらに詳しい検討が必要とされています。

2021 3月号 食べべもの通信より

震災から10年 震災を風化させない。復興は、続くのか？

2011年3月11日（金）14時46分、三陸沖に起きたマグニチュード9.0の地震。この地震につづけて15時過ぎから16時ごろにかけて、大きな津波が起こり、東日本の太平洋側の地域が大きな被害を受けました。2021年3月11日、東日本大震災から10年を迎えました。また、この震災によつて避難した人は最大で約47万人。現在も4万1,241人の方が本来の自宅以外の地域や仮設住宅などで暮らしています。福島では現在、3万6,192人が避難生活を余儀なくされており、そのうち2万8,959人が県外で暮らしています。岩手県内の人的被害は、死者4,672人、行方不明者1,122人、合計5,794人にも及んでいます。家屋被害は、全壊、半壊を併せて26,077棟にのぼり、そのほとんどが津波による被害となっています。



※ 死者数、行方不明者数、家屋倒壊数はいずれも平成29年2月28日現在のもの

11年目を迎える復興、いま被災地が向き合う課題

地震・津波被災地域での生活インフラの復旧はほとんど完了、防災集団移転や災害公営住宅の建設が進むなど、ハード面の復興は大きく進んできました。しかし一方では、新しく再建されていく地区で暮らすひとびとのコミュニティ形成や心身のケアなどのソフト面での支援は継続的に必要です。

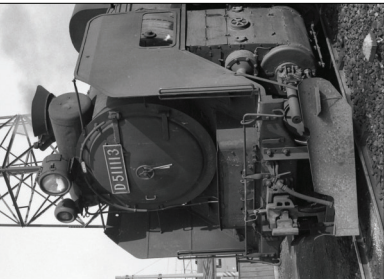


原子力災害被災地域では、避難指示が解除された地域での生活の再建が始まった一方、帰還困難区域の避難指示解除や、廃炉・汚染水対策については、長い年月が要することが見込まれ、復興・創生期間後も中長期的な対応が続いていきます。

東日本大震災の発生から11年目の復興を迎えた今もなお、非常に多くの方が避難生活を余儀なくされており、心身のケアや廃炉・汚染水対策だけではなく、産業の復興などの課題もありません。

2021年春闘

コロナ禍だからこぼ賃上げを！いのち・くらし・雇用を守ろう！



組合の主張
 コロナ禍で厳しい生活を余儀なくされている中、現場で働く社員たちは感染防止に努め、列車運行に尽力している。このような社員の生活を改善させるために

も大幅なベースアップは不可欠であり、回答にあたっては我々の主張を真摯に受け止め、ベースアップを実施することが会社の責務である

会社の説明

1月期改定で収入を下方修正しているが、その計画をも大幅に下回っており厳しい状況にある。貴組合の主張は真摯に受け止め交渉を進めていく。

コロナ禍で社会経済活動が低迷している中、鉄道事業も厳しい状況にある。さらに、自然災害の影響も大きく、代替輸送等により収入確保に努めたが、1月期計画で取扱収入が△15億円と計画を大きく下回っている。「ベアは実施できる状況にない」と社員の生活より社業を優先する不当な言明

社員の皆様が感染防止に努め頑張っている」と認識している。本日貴組合の主張は上層部に報告する。

東北貨物ダイヤ改正国交

2021. 2. 18
 建交労・東北貨物協議会、盛岡総鉄に関する団交回答。
 E日500作業間における砂確認と砂不足時の補給体制を整えられたい。
 〈回答〉作業検査以外の給砂体制としている。
 〈組合〉下り列車で黒磯で乗継の時に砂が無いと言われてもどうにもならない。急遽砂が足りない場合の給砂をどうするかマニュアルを作るべきである。
 陸中折居・水沢駅間の第1閉そく信号機に減速表示が出るように

改善されたい。
 〈回答〉現行で対処されたい。
 〈組合〉特に事象となつた信号機は確認しづらいためである。減速信号が現示されている場合は防げる事象であつた。個人の注意・判断には限界がある。
 各区所の休養室及び休憩室のエアコンを定期的に掃除されたい。
 〈回答〉現場において対応する。
 〈組合〉吹き出し口の中にカビが発生しているので、フィルター掃除だけでなく吹き出し口の中も掃除していた

いのちの蛙の独り言 19
 コロナ禍に無策どころか愚策過ぎGOTOでウイルス抑えず逆効果
 徹底した検査が何より最優先
 自治体が国を超えての効果策
 東京の世田谷区がまずトツプ切り
 各地でいい手が打たれている
 保健所は人手不足で大変で
 医療機関はパンクだ
 政府は何より予算を惜しまず
 体制きちんと整えて
 徹底検査で拡散防げ
 年金者組合大宮支部機関紙投稿中
 井上 駿

氷瀑の七滝

二月七日、七滝を目指して十一人が参加しました。盛岡を出るときは小雨が降っていましたが、奥民の森に着く頃は小雪に変わっていました。今年の七滝はどんな姿を見せてくれるか、みんな楽しみにしていました。

フオレストアイに集合して驚いたのは、駐車場が満杯でようやく停められたことでした。後から分かったのですが、七滝ツアーがあつたためです。いろいろな景色を見ることができました。歩き始めてしばらく



七滝をバックに

行くと、周りの木々の枝に雪がふわり落ちていて、冬ならではの絵画のような景色を見ることができました。先に

ました。七滝は、二十七mという雄大な水の造形美でした。私達は



大きな口を開けた七滝

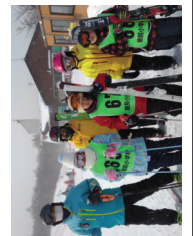
行つた日は、上部と下部の真ん中がわずかに融けていて、そこから豪快に流れ落ちる滝の様子を見ることができました。氷もまさにブルーアイスで、透明な青の部分がきれいでした。

冬の七滝は、厳しい自然条件の中で、その年の気候がその年ならではの氷瀑を造り、一日単位でも微妙に変化していくという面白さがあると感じました。

小学校スキー教室 子どもたちから指導員に感謝の感謝文が届きました。

今年は、コロナ禍で小学校スキー教室が減少する中、ボランティアに参加してきました。一回目は、4年生午前中は特訓、午後からはロングコースをノーストップで滑り満足して帰りました。二回目は、3年生初心者でボーゲンも出来ず、停止することもできない子を指導。スキーをはか

もたちは初めてのリフ乗り、あまり転ばず滑り満足しての夕食。午後は、ファミリーコースをノーストップで何度も滑り帰りには、来年は4年生になるので又スキー教室をお願いします。楽しかったと笑顔で帰りました。



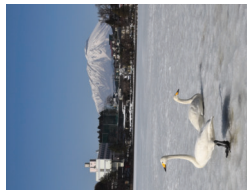
3月のたれども いろんな地球を残すのか T.H

キック、キック、トン。四朗とかん子がかた雪を歩き、子狐の紺三郎と女だちとなり、狐小学校の幻燈会に招待される。宮沢賢治の「雪わたり」。いつもは枕元にはレコーダーを置き、落語を聞きながら眠りに入るが、今の季節はこの童話にしている。長岡輝子さんの語りをイヤホンで聞く。

たりの思い出がよみがえる。先月、東京に住む孫が1歳になった。かた雪の上でいつしよに遊びたものだ。だけども、いま地球環境は非常事態だ。ナオミ・

クラインは「気候変動は政治の問題。今の社会システムを変えなければならぬ」と警鐘を鳴らしている。近著のタイトルは『OZ EARTH（地球が燃えている）』だ。

紙面のスズキさんは、「次世代への責任」を論じていた。まったく同感である。ナオミ・クライン（カナダのジャーナリスト、活動家）グレッタ・トゥーンベリ（スウェーデンの環境活動家）



田んぼを真つすぐ歩いて行けるので楽ちん。調子よく遊んでいると畦の日陰だった所で長ぐつがズボツ。幼いころの雪わ

2019年9月、当時16歳のグレッタさん。国連気候変動サミットで、傍聴者である私たちの世代に対し原ながらに訴えた。家が（地球が火事に

なっているのに火を消そうとしない大人たちには「恥を知れ」と。孫にも言われることがないようにしなくては。前号ジョイフルニュー